



ひなどり

園だより 9月号
令和元年9月2日
新潟市立新津第三幼稚園

子どもを幸せに導く3つのチカラ



園長 間嶋 哲

39日間続いた長い夏休みが終わりました。今年の夏休みは、いかがお過ごしだったでしょうか。2学期始業式での子どもたちの様子を見ると、たった39日なのに、子どもたちの成長した姿がまぶしく輝きます。毎日接している保護者の皆さんにはおそらく気付きにくい日々の成長が、しばらくぶりに会った私たちには、実感として感じられるのです。

ところで、今ベストセラーとなっている『小児科医のぼくが伝えたい最高の子育て』という本があります。慶應大学医学部小児科の高橋孝雄氏が著したものです。読み始めてみると、その感性が、私にも似ていると思えました。以下、引用します。

あなたは子どものいない社会を想像してみたことはありますか。どんなに味気なく、殺伐とするか…。いや、子どもなんてうるさくて煩わしいだけ。大人だけの静かで落ち着いた社会で暮らしたいと願う人もいるかもしれません。しかし、そこはモノトーンな社会です。子どものはしゃぐ声、ケンカして泣き叫ぶ声、下手な歌、落書きだらけの壁…。にぎやかで愉快でごちゃごちゃとした子どものいる世界は、実はとても豊かなのです。

夏休みの間、幼稚園は、主人公である子どもたちの姿はありませんでした。上の引用文に従えば、「大人だけの静かで落ち着いた」場です。しかし、それがいかに不自然なことなのか、すぐに分かります。主人公である子どもたちのいない幼稚園は、あまりにも寂しい建物でしかありません。そこに子どもがいるだけでエネルギーを感じ、明るい未来を感じる…そういう感性を、私たち大人が持ちたいものです。

前著では、さらに『子どもを幸せに導く3つのチカラ』として、次のことが挙げられています。

- ①誰かの気持ちに寄り添える「共感力」
- ②あらゆるシーンで、自分のことを自分で決める「意思決定力」
- ③生まれてきてよかった、自分は自分でいいと感じる「自己肯定感」

高橋氏によれば、①と②については、育て方次第で増加していく力。③については、もともとすべての子どもが持っているのに、「叱られ続ける」などの不適切な育てられ方によって、どんどん減少していく力であると主張されています。同感です。

当園の教育目標は『なかよく、せいいっぱい遊ぶ子ども』です。「共感力」がなければ、なかよく遊ぶことはできません。「意思決定力」がなければ、精一杯遊ぶこともできません。

2学期が始まりました。園生活の様々な場面で、一人一人の個性を大切にしながら、これら三つの力をバランスよく育むことができるよう、新津第三幼稚園は努力を続けていきます。